

あなたの使命とは何か？(20)「人生をふり返ることの意義」

メッセージノート (2023.4.16)

エペソ 3:14-19 ¹⁴⁻¹⁵ 神のご計画の深さと広さを思う時、私はひざをかかめて、天上と地上の家族の父である方に祈ります。¹⁶ どうか、父なる神が、その栄光に満ちた無限の富の中から、御霊を通して人を内面から強くする力を、あなたがたに与えてくださいますように。¹⁷ こうしてキリストが、信じるあなたがたの心に住んでくださいますように。¹⁸⁻¹⁹ そして、神の愛がどれほど広く、どれほど高く、どれほど深いかを理解することができますように。さらに、あなたがたがキリストの無限の愛を知って、キリストの愛といのちに満たされますように。

復習 エペソ書の構造: 1～3章「福音の教義」、4～6章「実践的道德」。

- ・ 1～3章の復習: 中心的テーマ: ①神の恵み深さ ②神の救いの計画と私たち使命 ③聖霊の内住と神の子としての永遠の保証 ④神の体としての「教会」(全人類を包含／一致)。
- ・ 特徴: 「横道(脱線)」のようなところが2回ある(1:3～14と 3:2～13)。祈りに入っていく。←今日注目するところ

単なる情報ではない この2箇所は、神のご性質について述べた直後に、感謝のあまり頌栄と礼拝が始まる。

- ・ 前者は、神の偉大な救いのご計画の中に私たちが組み込まれていたという事実。後者は、その計画の中で具体的な形でパウロ個人がどのように用いられるようにされているかについて述べながら感極まってしまう。
- ・ 今日、パウロのこの信仰者としての姿勢について学んでみたい。どうして、パウロは単なる知的な説明にとどまらず、手紙を書きながら、その理解が行動へと、すなわち礼拝へと導かれていったのだろうか？
- ◇ 神の恵みの理解の深さ: 客観的情報としてだけでなく、自分に与えられた個人的贈り物として受け取っていた。
- ✚ 『5つの目的』の第1章 We are made for God's pleasure の翻訳に現れた神との距離。

立ち止まり、ふり返ることの大切さ パウロもローマの獄に入れられて、ふり返る機会を得たのではないか？

- ・ 第3回伝道旅行を終える頃、信者たちが危険だからエルサレムに行かないように懇願したが、その反対を押し切って都に上り、案の定、逮捕され、今ローマの獄に繋がれている。
- ・ しかし、エルサレムへ行くことは、神からの命令であり、大きな困難は通るけれども、そのことを通して福音を王や支配者たちの前(全世界)に語る機会となると示されていた。
- ・ そのことは、捕らわれの身となるという形で成就していった。裁判における弁明は、福音を伝える機会となったが、何よりも、彼には考える(人生をふり返る)時間が多く与えられた。その結果、手紙や彼を訪ねて来る同労者たちへの個人的励まし指導という形で、より深い指導ができた。

パウロの神との近さ パウロは日々神と共に歩んでおり、起こって来るすべてのことを神との関係の中で捉えた。

- ・ NLT: 3:14 When I think of this, I fall to my knees and pray to the Father.とあるが、その理由は、神の大いなる救いのご計画の遠大さと緻密さ、その背後にある恵み深さに感動を覚え頌栄となった(1:3～14)。
- ・ 自分の人生をふり返る中で、神の偉大な救いの計画の中にパウロが入れていただいていること(異邦人の使徒として)に感動して思わず跪いて涙した(3:2～13)。

なぜふり返るのか？ あなたは、自分の人生を振り返る機会を持っているか？「もし持っていないとするなら、あなたが受

ける恵みの多くを受け取らずに生きていることになる」(ハンス・ビュルキ)。

- ・ しばしば神は、強いてその時間を取らせるという恵みを与えられる。

エレミヤ 29:11-14a¹¹ わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。¹² そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。¹³ わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら、¹⁴ わたしに出会うであろう、と主は言われる。わたしは捕囚の民を帰らせる。(新共同訳)

- この預言が語られたのは、バビロニア捕囚という「強いられた」ふり返りの期間であった。
- 「将来と希望」: 将来とは、過去から連続と続いて来ている将来という意味。そんな将来にどんな希望が見出せるかと思うかもしれないが、過去から何を学ぶのかということが重要である。
- ・ ジョン・タウンゼント:「健全な将来は、良い過去を生きることによって」。しかし、どうやって? 過去の失敗から学び、過去の反省から今日を生きること。それが、新しい「過去」になっていく。

何をふり返るのか?

- ・ 危機にあって「今、神は何を教えようとしているのか」と考えてみる。「危機」は英語で「crisis」で、分けるという語源から来ていて、粉をふるいにかけて外側の殻と分けるように、これまで覆われていたものが明確にされるプロセス。
- ・ これまでの行き方の内実が問われて来る。向き合うことで、そのことが見えて来る。cf.パウロ:アラビヤの3年間。

ローマ 8:28 私たちは、神を愛し神のご計画のうちを歩んでいる人のためには、その身に起こることはすべて、神が益としてくださることを知っているのです。

- 「その身に起こることはすべて」である。起こったすべてのことが、そのまま益ではないが、「すべて」が益とされる。失敗をして、そこから自分の本当の姿や弱さを自覚し始め、神の助けを真剣に求め始める。
- 弱さの中に働く神の力を経験していくこと。この経験においては、コミュニティが絶対必要(三位一体の神の姿に似せて造られたのだから、他の人との相互依存関係は欠かせない)。

ヤコブ 1:17 互いに罪を告白し合いなさい。癒されるためです。

- ・ 神の臨在の恵みこそが希望と力の源泉

詩篇 43:5 なぜうなだれているのか、私の魂よ。なぜ呻くのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう「御顔こそ、わたしの救い」と。(新共同訳)

司会者:エペソ 3:20 どうか、私たちの祈り、願い、考え、望みをはるかに超えたすばらしいことを、その偉大な力でなされる神に、栄光がありますように。

会衆:エペソ 3:21 どうか、キリスト・イエスによって、教会に救いの計画をもたらしてくださった神に、栄光が永遠にありますように。アーメン。

まとめ

- ・ あなたはこれまでの人生をふり返ったことはあるか?とにかかく前進あるのみと思って生きて来てはいないか?
- ・ ふり返ることへの恐れはないか?過去の傷を見たところで何か良いことがあるかと思っていないか?
- ・ パウロは、なぜあれ程感動したのだと思うか?あなたは祈りの中、み言葉を思い巡らせる中で、感動したことはあるか?それは、どうしてか?
- ・ 神の臨在が、あなたを救ったという経験はあるだろうか?そのために今できることは何だろうか?